

令和8年度 総合型選抜 人間健康科学部 福祉学科 小論文

出題の意図と解答の傾向

第1問

本設問は、志賀信夫著『貧困とは何か―「健康で文化的な最低限度の生活」という難問』の一節を通して、現代社会における貧困の多面的な意味と、それを支える社会規範の形成過程を考察させることを目的としている。貧困を経済的な欠乏としてのみ捉えるのではなく、人々の尊厳や社会的つながりの希薄化といった側面も含む社会的課題として理解する力を育むことを意図とした。また、社会が「放置しておくことができない」と判断する生活状態が、どのような価値観や連帯意識に基づいて決まっていくのかを理解し、自分の立場から論理的に表現できるかを問うた。単なる読解にとどまらず、社会課題を自らの経験や地域の現実と結びつけて考える姿勢を重視し、課題発見力と社会的思考力の両面を評価することを意図とした。

設問1

【出題の意図】

貧困が単なる「食べられない状態」ではなく、社会の中で「放置しておくことができない」と判断される生活状態として形成されてきたことを理解しているかを問うた。人々の関係性や社会規範の変化によって貧困の基準が拡大していることを踏まえ、「食べられている」だけでは貧困を否定できない理由を説明する力が求められた。

【解答の傾向】

- ・「食べることができているのだから貧困とは言えない」と単純に捉えることはなかったが、貧困を生活全体の成り立ちや人間としての尊厳の問題として整理する力が十分でなかった。
- ・過去と現代の貧困観の違いを的確に押さえ、論理の流れを踏まえて記述できた答案は評価が高かった。

設問2

【出題の意図】

貧困概念が時代とともにどのように変化してきたか、その背景と社会規範の影響を理解しているかを問うた。貧困をめぐる価値観が社会的合意によって形成されることを踏まえ、「放置しておくことができない」という判断がどのように貧困の定義を広げたのかを、筆者の主張をもとに説明することが求められた。

【解答の傾向】

- ・貧困概念の変化を時代的な流れとして捉えられず、「制度が増えたから」と表面的に説明

する回答が目立った。

- ・「放置しておくことができない」という価値判断が、社会の合意や連帯によって形成されていく過程を理解できた回答は高く評価された。

設問 3

【出題の意図】

「貧困＝あってはならない生活状態」という理念を自らの言葉で捉え直し、地域社会における具体的な協働のあり方を考える力を問うた。地域住民、支援機関・関係団体がそれぞれの立場を生かして連携し、誰も取り残さない地域づくりを実現するために何が必要かを論じることが求められた。

【解答の傾向】

- ・抽象的に「地域のつながりが大切」と述べるにとどまり、連携の具体的過程（地域の状況を把握し共有すること、支援を実践すること、支援内容の評価と見直し等）を示せない回答が目立った。
- ・具体的な地域活動例や連携の意義や過程を自らの言葉で整理し、展望できている回答は、説得力があり高く評価された。

第 2 問

【出題の意図】

- ・グラフから基本的な内容を読み取ることができるかを問うた。
- ・出題した内容をもとに、山口県における障がい者の就労支援に関して自分の考えを論述できるかを問うた。
- ・社会福祉が産業構造等幅広い分野とつながっている認識が持てているかどうかを問うた。

【解答の傾向】

- ・障がい者雇用率の年度変化において、その伸びがある点と、障がい種別についてはほぼ記述ができていた。より望ましいのは、「なぜ精神障がいをお持ちの方が雇用率の伸びが著しいか」であるが、近年の精神障がい者の方を取り巻く環境の変化にまで目を向けられるとよかったのではないかと考えている。
- ・多くの解答で、「障がい者の理解が進めば雇用の機会も増える」という記述が見られた。問題には、「山口県において障がい者雇用を促進する上で有効と考えられる取り組み」とあげており、上記の解答は山口県に限った要素ではないはずである。ここで記述すべきは、山口県の産業特性を含め、その産業特性に合わせた障がい者雇用を促進させるための視点である。地域ごとの産業特性に目を向け、その地場で有効性が高いと考えられる支援に結びつけようとする姿勢を期待したい。
- ・一方で、企業においてソーシャルワーカーの配置であったり、障がい者就労を促進させて

いくために就労継続支援施設と企業とのつながりを深める取り組みを指摘したりする記述もあり、こうした解答の評価は高かった。

- ・就労支援を含めて、支援は一人ひとりに寄り添う姿勢が大切である、という記述は大いに評価したい。
- ・解答の傾向としてはほぼ全員が最後まで記述をし終えていた。社会福祉の視点をもつということは、受験生が身近に感じているであろう、子どもの虐待といった子どもの諸課題であったり、高齢者を取り巻く問題であったりするが、普段はあまり身近には感じないかもしれない障がい者を取り巻く諸課題、特に障がい者の就労支援といった、さまざまな視点を新聞等から養い、自分事として整理し、文章に書き表す訓練をしておくことが大切だと思われる。